

陸上競技の迷惑撮影対策に関するヒアリング調査結果の報告

山元 康平¹⁾森 健一²⁾渡部 慶子³⁾肥田埜 里枝³⁾

1) 福井工業大学

2) 武蔵大学

3) 公益財団法人日本陸上競技連盟

1. はじめに

日本陸上競技連盟（以下、日本陸連）では、アスリートが安心して競技に取り組めるより良い環境づくりを目指し、迷惑撮影（被写体に了解を得ずひそかに撮影を行うこと（隠し撮り）のみならず、高性能カメラを使用して性的目的の撮影をすることを指す。）を撲滅する対策に取り組んでいる。具体的には、多くの競技会において迷惑撮影防止に関する啓蒙活動や見回り、撮影制限等に取り組むとともに、日本陸連ホームページの『陸上安全ナビ』ページ内に、『迷惑撮影』に関するページを開設し、迷惑撮影に関する情報公開や啓蒙を行っている（日本陸連、online）。さらに、指導者等を対象に、迷惑撮影に関する実態調査を実施し、迷惑撮影の現状把握と情報共有に取り組んでいる（山元、2024）。

本報告では、2024年3月に日本陸連公認コーチ資格の有資格者を対象に実施した迷惑撮影に関する調査結果から、陸上競技における迷惑撮影の現状について報告するとともに、迷惑撮影への対策について情報共有を行うことを目的とした。

2. 調査方法の概要

本調査は日本陸連公認コーチ資格の有資格者（公認スタートコーチ、公認ジュニアコーチ、公認コーチ）を対象に、2024年3月に実施した。回答数は555（男性481、女性70、無回答4）であった。年齢は10代1名（0.2%）、20代40名（7.2%）、30代66名（11.9%）、40代161名（29.0%）、50代181名（32.6%）、60代以上106名（19.1%）であった。また、陸上競技への関わり方については、小学校教諭19名（3.4%）、中学校教諭82名（14.8%）、高等学校・高等専門学校教諭108名（19.5%）、小学生クラブコーチ142名（25.6%）、中学生クラブコーチ53名（9.5%）、高校生クラブコーチ8名（1.4%）、

一般クラブコーチ21名（3.8%）、大学チームコーチ16名（2.9%）、実業団チームコーチ16名（2.9%）、その他90名（16.2%）であった。

表1は質問項目を示したものである。「はい・いいえ」等の選択式の質問とともに、自由記述形式の質問項目を設定し、具体的な内容について調査した。

3. 結果

(1) 競技会における迷惑撮影の実態と対策

問1「競技会においてご自身のチームの選手が迷惑撮影の被害にあった経験はありますか。（保護者からの相談を含む）」について、13.5%が「ある」と回答した。表2は、迷惑撮影の具体例（問2）を示したものである。短距離種目のスタートやゴールなどの競技中だけでなく、招集所やレース後の移動中の撮影、駅伝大会での迷惑撮影の事例、更衣中の被害、写真や動画のネットへの掲載や販売などの事例がみられた。問3「警察や主催者には相談しましたか。」について、主催者に報告・相談が45.5%、警察に対応を依頼が16.7%、直接自身でその場で対応が13.6%、特に何もしていないが12.1%であった。問4「ご自身のチームの選手が被害にあわないために意識していることや心掛けていることはありますか。」について、48.3%が「ある」と回答した。表3は、被害にあわないために意識していることの例（問5）を示したものである。「ユニフォームやウェアの対策」が最も多く（約40%）、「選手や保護者への注意喚起」「不審者への警戒」に関する回答も多かった（約30%）。練習等の競技会以外の場面では、「1人で行動させない」といった行動に関する注意や、「更衣室を利用させる」「更衣用テントを使用する」といった更衣に関する注意、「部外者を立ち入らせない」といった回答がみられた。図1および2は、問6「競技会において迷惑撮影等不審者の被害に遭いやすいと感じる世代」問7「競技会において迷惑

表1 アンケートの質問項目

No.	質問項目
1	競技会においてご自身のチームの選手が迷惑撮影の被害にあった経験はありますか。（保護者からの相談を含む）
2	問1で「ある」と回答された方に質問です。それはどのような内容でしたか。具体的な事例を可能な範囲でご記入ください。
3	問1で「ある」と回答された方に質問です。警察や主催者には相談しましたか。また警察・主催者への相談の他に実施した対応があればご記入ください。
4	ご自身のチームの選手が被害にあわないために意識していることや心掛けていることはありますか。
5	問4で「ある」と回答された方に質問です。それはどのような対策ですか？可能な範囲でご記入ください。
6	競技会において迷惑撮影等不審者の被害に遭いやすいと感じる世代はありますか。
7	競技会において迷惑撮影など不審者が多いと感じる種目
8	競技以外（表彰式など）での迷惑撮影や不審者が多いと感じる場面があれば、ご記入ください。
9	練習時やクラブ活動（競技会以外）にご自身のチームの選手が被害にあった経験はありますか。
10	問9で「ある」と回答された方に質問です。それはどのような内容でしたか。具体的な事例を可能な範囲でご記入ください。
11	問9で「ある」と回答された方に質問です。警察には相談しましたか。また警察への相談の他に実施した対応があればご記入ください。
12	練習時やクラブ活動（競技会以外）においてご自身のチームの選手が被害にあわないために意識していることや心掛けていますか。
13	問12で「ある」と回答された方に質問です。それはどのような対策ですか？可能な範囲でご記入ください。
14	発信した写真が、第三者によって悪用（加工して拡散など）される事例もあります。選手のSNSやチームのHPへ掲載した写真が悪用されたご経験はありますか。
15	選手のSNSやチームのHPへの画像掲載について注意をしていることはありますか。
16	問15で「ある」と回答された方、具体的な内容をご記入ください。
17	問14の事例の他、第3者（選手や公式情報を含む）が掲載した選手の写真が悪用される場合もあります。ご自身の選手がSNSやWEBサイトで被害にあったことはありますか。
18	問17で「ある」と回答された方、具体的な内容をご記入ください。
19	アスリートを支える立場であるスポーツ関連団体が協力し、スポーツ界全体で取り組んでいる「アスリートへの写真・動画による性的ハラスメント防止の取り組みについて」ご存じですか？ ※スポーツ関連団体：公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、一般社団法人大学スポーツ協会、公益財団法人全国高等学校体育連盟、公益財団法人日本中学校体育連盟、独立行政法人日本スポーツ振興センターなど
20	迷惑撮影報告フォームを活用したことがありますか。
21	迷惑撮影等相談窓口を知っていますか。あるいは活用したことがありますか。 https://www.jaaf.or.jp/ethic/ihaho.html
22	問21で「活用したことがある」と回答された方、ご意見やご感想、改善してほしい点をご記入ください。
23	ユニフォームに関するルールの解釈についてご存知ですか。 https://www.jaaf.or.jp/news/article/17826/
24	ご自身のチームで選手がユニフォームを選択できる環境を整えていらっしゃいますか？
25	迷惑撮影対策について競技運営側に求めることがあれば記載ください。
26	その他、ご自由に書きください。

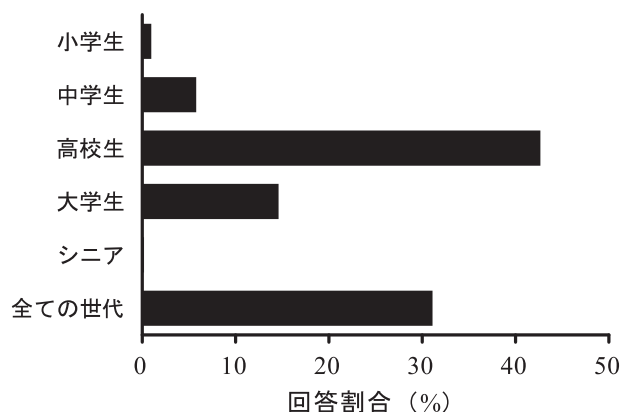


図1 競技会において迷惑撮影等不審者の被害に遭いやすいと感じる世代

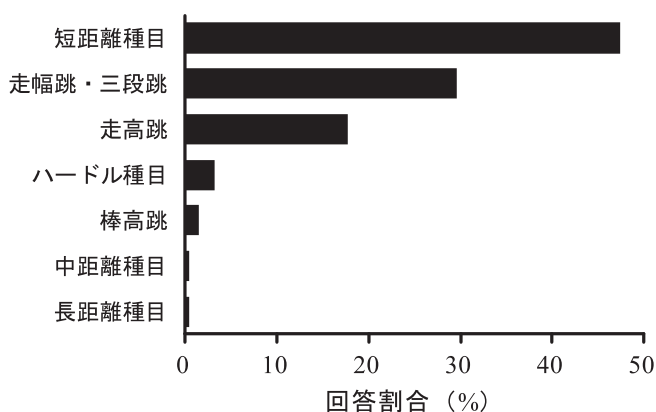


図2 競技会において迷惑撮影など不審者が多いと感じる種目

表2 競技会における迷惑撮影の具体例（問2）

スタート地点の動画やスタート時のフォーム、ゴール後の様子をズームで動画撮影され、販売されていた。
ゴール後選手が集まっているところを場外（ゲート扉の外側）から手のひらに収まる小型カメラを握りながら撮影していた。
選手が疲れて倒れているところの胸元や股間部分を撮影され公開された。
選手のゴール後にスタート地点まで移動する際に背後につけ、臀部を撮影。
女子選手の競技終了時にカメラで後を追いかけるように撮影している。
招集所近辺で盗撮をしていた。
選手が着替えをしているところを、離れた場所から撮影していた。
選手が気付き声をあげたところ、去っていった。
駅伝大会にて、ゴール後に倒れ込んだ選手を低いアングルから撮影をした男性がいた。
すぐに近くにいた競技役員が取り押さえ、警察を呼んだ。この男性は様々な大会に行っては盗撮を繰り返していた。
選手の知名度が上がるにつれて、ネット上にアップされる競技中の画像が増えた。
大会競技場にて女子生徒が同じ部活の男子生徒保護者に本人の了解を得ず撮影された。
ユニフォームのブルマー姿を写真に撮らせてほしい、そしてそのブルマーを売ってほしいと言われた。

表3 競技会において被害にあわないために意識していること（問5）

ゴール後にすぐにTシャツなどを着用する。ユニフォームのまま競技場外を歩かない。
テント設営の場所に注意する（盗撮されない場所に設置する）。
ユニフォームに透過防止の素材を使用する。
表彰時に上着を着よう指導している。
陸協で「一眼レフ」を使用した撮影を認めていない。会場の見回りをして疑わしい人物に注意している。
更衣室の使えない競技場に行く場合は、更衣用の小さいテントを持って行くようにしている。
大会時の撮影時は許可書を携帯することを保護者等に周知させている。
動線を確認し、速やかに移動させる。
練習時の撮影禁止をさせている。
撮影場所がきちんと制限されている競技会でのみセパレートユニフォームでの出場を可としている。
トイレや更衣室には複数で行かせる。
競技会への入場を、生徒保護者及びその関係者に限定している。
入場の際は、名簿に生徒の所属校と親戦者名を書かせている。
また、盗撮及び関係者機関との連携をしている旨を、プログラムに記載し、観客席にも掲示している。

撮影など不審者が多いと感じる種目」の回答割合を示したものである。世代では高校生年代が特に高い傾向がみられた。種目では短距離（主にスタート地点）が最も高く、次いで走幅跳・三段跳、走高跳が高かった。問8「競技以外（表彰式など）での迷惑撮影や不審者が多いと感じる場面」では、表彰式が最も多く（21.9%）、次いでウォーミングアップエリア（18.7%）、待機場所（12.3%）、フィニッシュ付近（7.0%）、チーム控室（3.2%）、トイレ（2.6%）であった。

（2）競技会以外における迷惑撮影の実態と対策

問9「練習時やクラブ活動（競技会以外）にご自身のチームの選手が被害にあった経験はありますか。」について、3.2%が「ある」と回答した。表4は、迷惑行為の具体例（問10）を示したものである。「練習中に一般の方が練習場に入り、撮影等をしていた。」「外部から覗いていたり、写真や動画を撮影された。」「練習場のトイレにて盗撮があった。」「公園内の周回走を行っている際、見知らぬ男性がカメラで選手を撮影していた。」などの事例がみら

表 4 競技会以外の迷惑行為の具体例（問 10）

練習中に一般の方が練習場に入り、撮影等をしていた。
外部から覗いていたり、写真や動画を撮影された。
練習場のトイレにて盗撮があった。
公園内の周回走を行っている際、見知らぬ男性がカメラで選手を撮影していた。
練習に行く途中に付きまとわれた。
撮影等ではないが、女子選手がしつこく声をかけられた。
個人練習をしていた際にわいせつな行為をされた（陳列）。

表 5 競技会以外で被害にあわないために意識していることの例（問 13）

関係者以外グラウンド等への立入制限（禁止）
できるだけ選手の周りに大人が張り付くようにしている。 カメラなど持っている人に近づかない。チーム関係者なのか問い出す。駄目なら警察へ通報。 怪しい動きなどあれば、すぐにチーム関係者に報告するようにし、情報を共有するようにしている。 外部から見えない場所での活動(屋内や敷地内) 自分のクラブに限らず、一緒に競技場を使用している他のチームと連携する。 迷惑行為に遭遇した時の早期連絡。
陸上競技場の利用しやすい更衣室が開放されていなかったの、利用できるよう何度も交渉した。
小学生男女問わずあまり1人で行動させないようにしている。トイレは大人がつく。
いくつもの事例を紹介し、現実として起きた行為を認識してもらう。 休憩中にリラックスしている時の姿勢や体勢など気をつけている。 女性コーチから指導や対策の指導を女兒に行う。
Tシャツを透けにくい色にしたり、一般の方がいる場では軽装にさせない。 露出が多い服装はやめてもらうよう話をしている。 ユニフォームで練習しない。 女子生徒の練習着について、雨天時には透けたりするので、黒のシャツを着るように伝えています。 小学生はまだ意識が足りないの、露出が多い選手や、補強運動ではだけたりする時には、サイズが合った物を着るように注意をしている。 丈の長いまたは大きいTシャツや上着の着用をする。ストレッチ中は人目から反対を向くようする。 ユニフォームの下着はユニフォームと同色にする。 テントなど視界を遮る物を用意する。
保護者のお当番さんに見てもらっている。保護者同士の挨拶を心掛けている。

れた。問 11「警察には相談しましたか。」について、42.1%（19 件中 8 件）が警察に相談していた。問 12「練習時やクラブ活動（競技会以外）においてご自身のチームの選手が被害にあわないために意識していることや心掛けていることはありますか。」について、32.4%が「ある」と回答した。表 5 は、被害にあわないために意識していることの例（問 13）を示したものである。【選手の服装・着替え】更衣室での着替えの徹底・露出の多い服装はしない、【選手・保護者への情報提供・注意喚起】単独行動はせず、不審な状況があれば報告するよう指導、【指導者の注意・配慮】関係者以外は立入禁止・周囲に不審者らしき人がいないか監視、【その他】練習メニューによる場所の管理。（校外から見えない場所で練習）などの事例がみられた。

（3）SNS 等の利用における迷惑行為の実態と対策

問 14「選手の SNS やチームの HP へ掲載した写真が悪用されたご経験はありますか。」について、2.7%が「ある」と回答した。問 15「選手の SNS やチー

ムの HP への画像掲載について注意をしていることはありますか。」について、44.0%が「ある」と回答した。表 6 は、SNS やチームの HP への画像掲載について注意していることの例（問 16）を示したものである。【個人が特定されない配慮】個人が特定されるようなものは載せない。画質を落とす。【選手・保護者への承認／確認】選手の同意がないものは掲載しない。【掲載内容の選定】肌が露出しているものは載せない。【掲載・投稿の制限】SNS に写真を載せることは極力控える、などの事例がみられた。問 17「選手が SNS や WEB サイトで被害にあったことはありますか。」について、2.9%が「ある」と回答した。表 7 は、SNS や WEB サイトでの被害の例（問 18）を示したものである。「表彰式の写真を無断で SNS に投稿された。」「画質の良い写真を拡大されて、切り取られ掲載された。」「生徒が SNS に投稿したユニフォーム姿の写真が、アダルトサイトに無断転用された。」「動画共有サイトに映像がアップされて卑猥なコメントや性的なコメントが複数投稿された。」などの事例がみられた。

表 6 SNS やチームの HP への画像掲載について注意していることの例（問 16）

SNSやホームページに載せる写真を選手、保護者やスタッフに確認してもらっている。 他の選手などが映らないように心がけている。
画質を落として掲載するようにしている。
顔は出さない。できるだけ個人の特定ができないようにする。
使用する場合必ず同意書を取る。また、顔などは加工する場合もある。
女子の写真は足や胸元など拡大して確認、必要に応じて画像加工や切り抜きなどしている。
男子生徒の写真や動画を使っている。
練習および大会での携帯の使用を禁止している。
なるべく悪用できないように画像を小さくしたりぼかしたり特定できないようにしている。
個人（学校）が特定されるような情報をアップしない。 賞状やウェアに氏名や学校名などが記載されている画像は掲載しない。
特に所属選手が出場した大会名で検索するなどして、何か問題が無いか確認するようにしている。
クラブ会員のみ見れるサイトでクラブ活動のお知らせ等する。
SNSやホームページ等を使用していない。
競技中の写真投稿をいっさいやめた。 しかし、保護者や卒業生からは、応援に行かなかった時等の結果や走りを知ることが出来ず、非常に残念であるとの声が多い。
写真を共有フォルダやSNSへアップロードしない、もしくは選手にもさせない。 写真のやりとりは個別のデータ転送のみ。
保護者には、掲載を控えるよう依頼している。選手には、掲載をしないよう指導している。
保護者等に練習時の撮影はご遠慮いただいてる。
基本的に部活動関係でのSNSへの書き込みなどは慎むよう注意している。

表 7 SNS や WEB サイトでの被害の例（問 17）

表彰式の写真が無断でSNSに投稿された。
画質の良い写真を拡大されて、切り取られ掲載された。
生徒がSNSに投稿したユニフォーム姿の写真が、アダルトサイトに無断転用された。
女子ユニフォームがネットオークションに出品されており、 陸上部のホームページから写真が流用されていた。
動画共有サイトに映像がアップされて卑猥なコメントや性的なコメントが複数投稿された。

表 8 迷惑撮影対策について競技運営側に求めること（問 25）

運営側だけでは人手が足りないので迷惑撮影を取り締まる専属の人員、または警備の手配。 費用面も含めて補助してほしい。
ルール違反を犯した場合の具体的な処置を大会要項に記載してもらいたい。
迷惑撮影が多い世代の競技会には警察OB・OGの方にご協力頂き巡回してもらいたい。
観客からの通報が一番発見につながるので、運営と観客が連携できるように工夫をして欲しい。
注意すべき状況を知りたい。実際どのような被害があるかを知りたい。
小中高校生向けのユニフォームの規格を統一することが必要。
競技の審判をしている際、選手は審判に相談にくるので、 結局現場からスタンドに注意をしたりする必要があり、競技に支障が出始めている。
保護者、一般の撮影許可を試合規模の大小にかかわらず統一してほしい。 試合の様子を撮ってもらって確認したい選手もいると思うのでその場合どのように 周りは解釈すればいいのか。許可されている、されていないをどう見極めるのかを検討してほしい。
保護者が撮影していても迷惑撮影をしていると報告されたことがある。 カメラの中身を確認してもらい容疑は晴れたが、スタッフ保護者選手共に皆で嫌な思いをした。 自分が競技していた頃の動画は残っていないため、思い出作りのために撮影はさせてあげたい。
迷惑撮影対策が非常に大切なのは理解できるが、保護者やチーム関係者が撮影する権利は確保してほしい。 例えば走高跳の撮影の時に他種目の撮影制限エリアからカメラを向けたい場合があるが、 そこは何かの方法で許可できるようにしてほしい。
何でもかんでも撮影NGはよくないと思う。撮影している事自体が卑劣な行為と思われる状況はよくない。

(4) 迷惑撮影等の防止に関する情報について

問 19「アスリートを支える立場であるスポーツ関連団体が協力し、スポーツ界全体で取り組んでいる「アスリートへの写真・動画による性的ハラスメント防止の取り組みについて」ご存じです

か？」について、89.0%が「ある」と回答した。問 20「迷惑撮影報告フォームを活用したことがありますか」について、2.7%が「ある」と回答した。問 21「迷惑撮影等相談窓口を知っていますか。あるいは活用したことがありますか。」について、「知らな

表9 その他自由意見の例（問26）

マーシャルとは別にあえて不審者にわかるように盗撮や迷惑行為を専門とする審判部署があるということが分かるようにしてほしい。 警察との連携をもっと強化してほしい。独自に盗撮者を確保しても、その後の警察の対応が甘い。 審判員不足が深刻で、なかなか迷惑撮影対策まで人員がまわせない。 大会運営側が対応しなければならない、としないでほしい。 大会運営側が悪い、となってしまう。 日本陸連やスポ協など、注意しろ！と言うばかりでなく、具体的な施策や支援をしてほしい。 具体的には、監視システムに対する費用の補助や援助など。 各大会参加の際、チーム受付で啓発チラシを1枚配布してもらえれば、保護者が監視の目として役立つことが出来ると思う。 競技会によっては、保護者に写真を撮ることを認めている大会があり、主催者側にも、指導者等から「許可をして欲しい」という申し出が多くある。 「お子さんを被害から守る」ということで理解してもらっているが、小学生の保護者には理解が進んでいないように感じる。 競技会で審判をする事がありますが、迷惑撮影の対策を強化してきているので、かなり浸透してきていると思う。 競技のライブ配信が主流になっているが、陸連や学連が主催の大会においても、走る前の控えベンチの様子、走った後のスパイクを脱ぐところまでカメラが追いかけていることは問題である。 自身のチームは男性が多いことと、様々な年代がいるもののどちらかというと年齢層が高いので、対策を講じておらず、また選手自身が気をつけれるので、特に注意喚起等をおこなってはいない。 インターネットの掲示板である特定の競技場は盗撮しやすい場所だという書き込みがあり、実際にその情報をもとに来た者から盗撮の被害にあった。 撮影することが悪なのか、転用や投稿が悪なのか、その辺りがあいまいであったり、罰則や取り締まりが不十分のために、競技団体や主催者頼みの対応策になっており、十分な対応になっていないと感じる。 また、オフィシャルとして競技団体や主催が撮影したものの中にも、配慮に欠けるものが多い。	迷惑撮影は問題だが、一方で自分が撮影された画像や動画を必要としている選手もいる。人数が揃ったチームならチーム関係者が撮影できるが、ほぼ選手本人のみで参加している場合はSNS等にアップされたコンテンツも本人にとっては大切な記録になる。 SNS等にコンテンツが豊富にあることは陸上競技の魅力発信に大きく寄与していると思う。あまりに締め付けが厳しい結果、盛り上がり欠けたり、観戦を敬遠する流れが大きくなれば本末転倒だと思う。 誰もが観戦できるわけではなく、近年はWEB配信の機会も増えたが、それでも地方大会などでは配信が無い方が当たり前。その場合、選手の家族やチーム関係者が撮影した記録は本人にとってもその家族にとっても貴重。 選手を守るのは当然として、一部の迷惑行為者とその他大多数の関係者を結果的に同列に扱うことは、いずれこの競技そのものの未来を縮小させることにならないだろうかと危惧している。
--	--

い」42.7%、「知っているが活用したことはない」56.6%、「活用したことがある」0.7%であった。問23「ユニフォームに関するルールの解釈についてご存知ですか。」について、67.6%が「知っている」と回答した。問24「ご自身のチームで選手がユニフォームを選択できる環境を整えていらっしゃいますか？」について、57.5%が「選択できる環境を整えている」と回答した。

(5) その他：運営への要望等

表8は、問25「迷惑撮影対策について競技運営側に求めることがあれば記載ください」の例を示したものである。また、表9は、問26 その他自由意見の例を示したものである。「競技会における撮影や公開のルールの明確化」（約40%）および「競技

会における巡回や取り締まりの強化」（約30%）に関する回答が多かった。「ルールの明確化」について、ルールの厳格化を求める意見が多い一方で、指導者や保護者の撮影に配慮を求める意見も少なくなかった。また、「取り締まりの強化」について、巡回の強化や警察との連携を求める意見が多かったが、人手不足や経費の問題、迷惑撮影の判断基準等の具体的な問題に関する意見もみられた。さらに、「注意喚起や通報フォーム等による観客との連携」「実際の被害状況や問題となる場面に関する情報共有」といった観客等が協力できる環境の構築に関する意見や「公式の配信の映像にも配慮が必要な場面がある」等の指摘もみられた。

4. おわりに

調査の結果、回答者のうち10%強が競技会および競技会以外における迷惑撮影の被害経験があり、そのうち、半数程度が主催者や警察に相談していた。約半数程度の指導者が競技会において自身のチームの選手が被害にあわないために意識をしていた。また、67.6%がユニフォームに関するルールの解釈について知っており、57.5%がユニフォームの選択性を取り入れているという結果になった。さらに、主催者側で取締や警察との連携の強化や厳罰化の必要性、保護者や観客の協力の必要性、被害の低年齢化への懸念、指導者や保護者の撮影に配慮を求める意見等もみられた。

今回の調査から、迷惑撮影等に関する指導者や運営が実際に感じている問題や対策の実態について示すことができた。今後は、指導者、アスリート、競技会運営および日本陸連が相互に協力し、陸上界全体のより良い環境づくりに向けて協力して組んでいくことが必要であると考えられる。陸上安全ナビ(日本陸連、online)では迷惑撮影に対して、「陸上界では、この行為を許さない、また未然に防ぎ、根絶させていくことを目指しています」「迷惑撮影の存在を、まずはみんなで認知しよう」「みんなで選手を守っていく」というメッセージを発信し、その根絶に取り組んでいる。本報告を踏まえ、日本陸連指導者養成委員会では、指導者が感じている課題に寄り添い、アスリートのみならず、指導者にとっても安全・安心な環境を作っていけるようサポートをしていきたい。

5. 附記

本報告は公益財団法人日本陸上競技連盟安全・安心プロジェクトによる迷惑撮影対策に関するヒアリング調査結果から作成をした。

6. 参考資料

日本陸上競技連盟 (online) 陸上安全ナビ～すべてのアスリートが安心して競技に取り組める環境を目指して～ <https://www.jaaf.or.jp/safety-navi/> (参照日：2025年1月31日)

山元康平 (2024) 迷惑撮影対策に関するヒアリング調査結果の報告. 陸連時報, 2024 (24) : 231.